

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目1番16号 (電話) 099-284-1582
自己評価作成日	平成 29年 12月 15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は開設11年目にあたります。H29年1月16日より管理者の変更がありました。施設理念である『家庭的でやすらぎとあたたかな暮らし』を提供する為、介護保険の理念である『自立支援』と『尊厳』の在り方をスタッフ全員で振り返り、入居者様へのケアに繋がっています。日々の健康管理やリスクマネジメントを始め、何事にも『予防の視点でケアを提供すること』と『早期発見と迅速な対応』に重点を置いています。スタッフは『認知症』を専門的に正しく理解した上で、『目配り・気配り・心配り』の3本柱を念頭において、入居者様が心穏やかに、楽しく、健やかに過ごせます様、日々のケアを工夫しながら取り組んでいます。入居者様が望む『より良い暮らし』を常に考え、御家族様とのコミュニケーション・情報共有を大切にしながら、個別でのケアカンファレンスを毎月定期的に(必要時は随時)行いケアサービスの質の向上へと繋がっています。また、統一したケアを提供する為、スタッフ間のコミュニケーションとタイムリーな情報共有にも力を入れています。スタッフ教育の面では施設内で毎月勉強会を開催しています。外部研修やスキルアップ研修にも積極的に参加しています。地域との関わりでは、町内会や地域清掃・学習塾へ毎月参加して交流を図っており、災害時の避難訓練を始め応援・連絡体制を確立しています。又、入居者様と一緒に運動会やすこやか祭等の地域行事にも積極的に参加しています。定期的にボランティア様も訪問しています。介護養成講座や訪問看護等の実習生の受け入れを積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 現在、両ユニットの最高年齢は、98歳女性。平均年齢は、89歳、平均の要介護度は、「3」で、利用者が高齢化、重度化の傾向がある。
- 当ホームは、4階建ての1階がデイサービスセンター、2階と3階がグループホームになっている。運営母体は医療法人であり、訪問診療や往診にて適切な医療が受けられ緊急時の協力体制が整備され、24時間医療連携が図れている。重度化した場合については、看取りのしくみがないため、契約時、「状態変化に伴う退所指針の同意書」にて説明と同意がなされている。
- 町内会に加入し、役員として町内会の総会に参加、回覧版を通じて地域の情報収集に努め清掃活動や運動会、十五夜祭りなどの地域行事に参加したり、運営推進会議に町内会から出席をもらい地域やホームの課題などについて互いに意見交換したりして相互に協力関係を築くなど、地域との関係性は良好である。

認知症サポーター養成研修のため講師派遣したり、職員が成人学級に自主参加するなど地域と日常的に交流している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気を大切にすることと、地域との関わる意義では「地域に向けた音楽の調べ」という施設理念を念頭に置き、朝礼時に唱和して理念の実践に取り組んでいる。	理念は、ホールやスタッフルームなどに掲示され、パンフレット、広報誌に記載して利用者や家族と共有し、民生委員などに配布するなどしている。また、職員は、朝礼で唱和し理念を意識してケアに取り組むなど職員に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事（運動会・十五夜祭り等）や毎月の清掃活動に参加したり、運営推進会議で意見交換を行っている。避難訓練にも参加して頂き緊急時の連絡体制もできている。	町内会の役員を引き受けるなど、地域の行事や清掃活動に参加し、避難訓練へ協力をもらったり、成人学級に出席するなど地域との関わりが密である。地域の課題をともに検討し、利用者が地域で暮らし続けられるよう地域の一人員として積極的に関わり日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	日曜日の朝は地域清掃に参加している。又、ボランティアや実習生・職場体験、認知症サポーター実習の受入れを行っている。月1回発行する新聞で介護に関する情報を入れ町内会へ回覧している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状報告のみならず、質疑応答の時間を設け、地域の方々や家族との意見交換が積極的に図れるような取り組みを行っている。	会議は、法人施設合同で開催されており、地域関係者や法人の代表者、関連施設関係者などの参加もあり、消防署立ち合いの避難訓練と同時に開催することもある。質疑応答も活発に実施され地域やホームの課題や取り組みなど検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入れを行ったり、事故報告書を提出する際は、類似した事例が無いか、再発防止のアドバイスを頂くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターと連携し、認知症サポーター養成研修の講師を務めたり、運営推進会議への出席や研修会の案内をいただくなど協力関係を築いている。また、毎年、市の介護相談員も受入れ介護の質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フィジカルロック・ドラッグロック・スピーチロック等身体拘束による弊害を勉強会で繰り返し学び理解している。玄関の施錠は街中の施設という事で利用者や家族は「安心」と理解して頂いている。	勉強会は、内部研修を年1回開催し知識や技術の研鑽をおこなっている。センサーマット使用中の事例があり、転倒のリスクがある方のアセスメント、モニタリングを実施し、サービス担当者会議で検討、介護計画書に位置づけてモニタリング結果や身体拘束三原則を踏まえ漫然と使用することがないようケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止において職員のストレスマネジメントを考えながら、認知症に対する理解不足が原因で虐待に繋がらない様、勉強会を繰り返し行っている。日々のスタッフの口調や言葉遣いにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度に関して当施設での事例はないが、スキルアップ研修や民生委員の方から話を聞いたりして制度の理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は使わずに、解り易い言葉で説明している。施設生活に対する意向の確認を始め、病状の変化や転倒等事故のリスク等も事前にきちんと説明し、施設生活に対する不安の軽減に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両ユニットの玄関に意見箱を設置している。面会時には必ず職員がご家族へ現状報告を行い、そこから意見や要望を確認している。書面でも毎月のお便りでご近況報告を行っている。年に1回家族会を開催して意見交換を行いケアの質の向上に繋げている。	面会時や行事、家族会の際に家族から直接意見や要望などを聞き取る機会を設けたり、日々の生活の中で意見などが出しやすい雰囲気や関係作りに努めている。出された意見などは、職員会議などで話し合いサービスの改善につなげたりケアに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言い易い雰囲気作りと関係性の構築に努めている。朝礼時や毎月の会議の時、業務の合間に意見や提案を聞く様になっている。	年1回、管理者は職員と個人面談を実施している。職員は、毎月の職員会議や全体会議などで意見、提案を話し合っている。また、代表者は、働きがいのある職場作りや安定雇用を目指し、職場環境や福利厚生に力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を把握する様に努め、環境整備に努めている。日々の業務のみならず、見えない所での働き・努力の姿勢にも目を向けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の勉強会、法人内でのスキルアップ研修には夜勤者以外全員が参加している。外部研修へは勤務の都合上、全職員は参加できていないが、可能な限り参加を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホーム管理者や他事業者と意見交換や相談を行い施設のサービス向上へ繋がるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には必ず本人・家族と面談を行っている。面談の時間も一人一人調整し、ゆっくり話を聞いている。家族の要望だけが強くならない様、本人の要望とすり合わせを行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯、ご家族様の介護の苦勞など、傾聴と共感に重点を置いている。ご家族様の立場で物事を考え、施設での生活が具体的にイメージできる説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報を下に、必要な支援の優先順位を考え、サービス利用前に調整を行っている。グループホームでの対応が困難と想定される方や他のサービス利用が必要な場合は他機関に相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、スタッフは家族に近い立場で接する様に努めている。家事活動では裁縫・調理・味見に協力して頂き職員が学べる関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会で家族の思いを確認し、チームケアの中に家族の役割を確立して、外出支援などを中心に、共に支援していく方向性で働きかけている。家族の力の重要性についても話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ同意を行った上で、昔の知人や近所の方の面会を可能な限りして頂ける様支援している。自宅への外出等、家族の協力を得ながら支援している。	利用者各々、教会関係者の方が面会に来られ一緒にミサに行かれたり、家族の協力をもらいながら外出や外泊をされる方がおられる。職員は、手紙の代読や代筆などして、人との関係性が途切れることがないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、食事の席工夫やレクリエーションのチーム分け等行っている。必要時は間に入り交流を支援し、共同生活における孤立化を防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は必要に応じて適切な医療や福祉機関を紹介している。また、終了後の本人や家族の様子を時にふれ伺う様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは日々、本人の思いや希望をゆっくり傾聴するよう努力している。入居者に担当スタッフがあり、得た情報は全員が連絡ノートやミーティングで共有している。意向の把握が困難な方へはケアの反応、生活歴、家族の話を踏まえている。	本人の思いを汲み取り、思いに寄り添いながら、希望や意向を踏まえた生活の実現に向けて話し合っ家族とも本人の思いを共有し、共に支えていくなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から聞き取りを行いこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや残存機能等においては本人の意向を考慮しながら、専門職として出来る事、出来ない事を見極め対応している。疾病については病院と連携を取り状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを始め、スタッフが得た情報や気づきをカンファレンスで確認している。本人の要望や家族の意向を踏まえたケアの提供を考えプランを作成している。また、専門職として必要なケアが何かを話し合い提供している。主治医、家族の意見や要望も取り入れている。	ケアチェック表にてアセスメントし結果を分析して介護計画書に反映させている。カンファレンスは定期的実施され、サービス内容の確認、見直しなど短期目標の達成状況を踏まえ計画的に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を目的に、記録は本人の言動を取り入れ、普段と違うことが起こった場合は詳細に書くように努めている。夜間帯は特に注意して時間を追いながら記載している。ケアプランに沿った記録を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の更新等専門的な諸手続きや日用品の買い物、福祉用具の手配等必要な時は速やかに代行している。心身に異常が有った時は主治医へ報告し必要に応じ専門医への受診の予約や付添いをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加を依頼し、安全な生活が確保出来る様に消防や警察等と連携している。また町内会の方々や民生委員の方を含め協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医との面接を行い、健康管理や訪問診療、必要に応じた定期検査について説明をしており、本人・家族は安心されている。疾病内容により専門医の紹介もしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医であり、月2回訪問診療にて診察を受けている。また、母体が医療機関のため24時間切れ目なく医療連携が図れている。皮膚科、眼科など他科受診は、職員が対応しており、家族に報告し、薬剤師との医療連携もあり、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携機関の外来看護師と密に連絡を取り医療的な相談や情報や気づきの共有に努めている。医療面でのアドバイスをケアに反映している。訪問診療で賄えない検査は通院で対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院先への情報提供は書面のみならず、必要時は職員が付添いし、情報提供おこなっている。定期的な面会と退院前訪問を行い、入院時の情報を確認しながら、退院後にも安心して施設での生活が出来る様、状態の報告を行い指示を仰ぐ様にしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に家族へ重度化した場合の方針について十分に説明し理解して頂く様にしている。心身の状況は常日頃から伝える様にし、重度化した場合の対応も合わせて説明している。</p>	<p>契約時に、「状態変化に伴う退所指針の同意書」にて説明・同意をいただいております。重度化した場合は、法人の医療機関や施設紹介をおこなうなど本人や家族の希望や意向を踏まえ納得のいく最期が迎えられるよう取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>経験の浅いスタッフ含め全スタッフがいつでも見られる様にマニュアルを作成している。また、勉強会で定期的に訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署指導のもとに様々な想定で年2回以上避難訓練を行っている。専門的な意見を頂き、より実践的な訓練が出来るよう訓練内容を見直している。地域の方にも訓練に参加して頂き協力を得られる様にしている。</p>	<p>昼夜想定で年2回避難訓練を実施しており、地域の協力体制もあり、役割分担も決めて避難訓練に参加していただいている。</p> <p>消防署は近く、法人の協力体制もあり防災意識が高く、避難経路の確認や消火器の点検、風水害想定での訓練など法定訓練以外に年2回実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重やプライバシーの確保に努めながら、優しく丁寧な声掛け、対応を行っている。	年1回は、内部研修を実施、居室に入室する際は必ずノックするよう徹底している。また、全体会議で排泄時の声かけについて職員全員で共通認識を図るとともに誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、それとなく希望や要望を聞き出すような会話を意識し、声掛けを行っている。又、選択の場面では、まず利用者に選択を委ね、必要に応じ助言を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者、様々な性格の方がおられますが、その方のペース、希望に合わせて会話を交えながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	同じ衣類にならないよう、起床時・入浴時の更衣に配慮している。髪を整えている。行事などがある時に、化粧なども行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態に合った食べやすさに配慮している。(刻みやトロミを使用) 食事中に音楽をかけたたりし、食事が楽しくなる工夫をしている。調理の下ごしらえ・盛り付けや下膳・皿洗い等も協同で行っている。	食事形態を工夫し、食べやすく調理したり、高カロリー食を活用し栄養状態を改善される方もあるが、食事に関しては、「おいしさを追求」という観点で食事を提供している。利用者は、誕生日に職員と外食を楽しんだり、敬老会には、出前の寿司を取ったりするなど食事が楽しみになるよう取り組んでいる。また、能力に応じて食事の準備などをしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェック表を下に必要量を確保できるように気をつけている。又、食事摂取や水分量が少ない方は本人の嗜好品などご家族や、本人へ聞き、提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕必ず口腔ケアを行い、清潔保持・口臭予防に努めている。又、訪問歯科と提携し、不具合があった場合、随時相談を行ってもらえるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様1人1人の排泄状態に応じた対応を行っている。極力トイレにて排泄できる様に心掛けている。汚染があった場合は、本人を思いやる声掛けを行うように努めている。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握したり、定時にトイレ誘導し排泄介助している。夜間、ポータブルトイレを併用される方で転倒予防のためセンサーマットを活用している方もある。職員は、おむつの使用量を記録し、家族に報告するとともにおむつへの排泄が減らせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日野菜たっぷりの食事を提供したりリハビリ体操を行い、筋力維持に努めている。便秘の状態が見られる時は、水分補給や腹部マッサージを行い、最終的には医師の指導の下、下剤などで便秘解消を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1人1人入浴への声掛けを行い、プライバシーを確保しながら、本人のペースに合わせた入浴を行っている。浴室と脱衣所の温度調整に配慮している。	週3回程度入浴支援をしているが、その時の状況により本人の希望や曜日、時間を決めずにタイミングを図り入浴を楽しんでいただくなど個々に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせた休息を促したり、環境を整え安心した入眠が出来るように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの内服薬説明書などをファイリングしてあり、スタッフ全員が確認できるようにしている。誤薬が無いように2人で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存能力に応じ、皆で協力し合って、食事作りの下ごしらえ・洗濯物の片付け等仕事を分担している。又、レクリエーションの時間やお茶の時間を設定している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い方等、ご家族の協力を得ながら外出支援を行っている。年間行事の中に花見などの遠足を行い、その際ご家族や地域の方々に案内し、参加を募っている。	天候や体調を見ながら、散歩や外気浴を楽しんだり、近所の神社やスーパーマーケットに出かけている。「年間行事計画」を作成し、花見、夏祭り、そうめん流しなど計画的な外出支援を実施し、利用者が季節を五感で感じられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の状態を考慮しながら、所持・管理が可能であれば、持って頂いている。こちらで預かりもしており、必要に応じ、一緒に買い物も行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様が希望するとき、こちらよりご家族様へ電話行い、本人とご家族が話せる時間を作っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室・トイレに手作りの表札を掛けたり、玄関に季節に合わせたユニットの表札を掛けている。車椅子が安全に通れるスペースを確保している。</p>	<p>共有スペースは、テーブルと椅子が設置しており、和室にはソファや仏壇が配置されベランダには、洗濯物が干してある。居室からベランダに出られるよう掃出しになっており、対面キッチンで家庭的で落ち着いた雰囲気のある居住空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの自席の他に、ソファや和室など居場所を用意している。又、席の離れた利用者同士が会話するのを支援するよう、席の移動を必要に応じ案内している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今迄生活されていた私物を置き、居心地の良い環境作りに努めている。又、本人が作成した塗り絵などを飾り、明るい部屋づくりを行っている。</p>	<p>ベットや寝具、写真、テレビなど馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。部屋中央に本人の希望でベットを配置した方もあるなど利用者の使い勝手がいいよう検討し居住環境を整えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人の状態を考慮し、必要な方へはベットや窓枠の角などを保護している。歩行が不安定な方へは迅速な対応ができる様に、御家族様の同意や希望でセンサー等使用し、安全に配慮している。和室で休む方もいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない